第60回日本病跡学会
2013年7月27日(土)

日本のポストモダンの先駆者 山本七平

奥村克行[1)]　秀瀬真輔[1)]
風野春樹[1)]　江口重幸[1)]　金川秀雄[2)3)]
1)東京武蔵野病院 2)横須賀市立うわまち病院 3)昭和大学医学部精神医学講座

はじめに

- 山本七平（1921-1991）は日本についての独創的な研究を行った。
- 山本の言論活動は1970年から1991年の他界までの20年間であり、日本の近代について批評した。
- 山本の生涯や業績を紹介し、山本の創造性について考察する。

山本七平（１９２１－１９９１）

山本七平の仕事

- 日本研究における新たな視点を提示
  - 『日本人とユダヤ人』　日本人論、ユダヤ思想の紹介
  - 『空気の研究』　日本人の空気の構造
  - 『日本資本主義の精神』　石田梅岩の石門心学、鈴木正三
  - 『江戸時代の先覚者たち』　山片蟠桃、富永仲基、懐徳堂
  - 『現人神の研究』　李舜水の朱子学、山崎闇斎
  - 『日本人とは何か』　貞永式目、技術史など
- 言論界での多彩な評論等の活動
- 聖書学関連書籍の出版、ユダヤやキリスト教の思想の紹介

年譜（1）

- 大正10年　東京三軒茶屋の中産階級でキリスト教の家庭で出生。同胞4名中唯一の男子
- 昭和3年（7歳）　青山師範学校附属小学校入学
- 昭和9年（13歳）　青山学院中学部入学
- 16歳で洗礼を受ける
- 昭和14年（18歳）　青山学院高等商業部入学
- 昭和17年（21歳）　学校を繰り上げ卒業、速成士官教育され、昭和19年砲兵少尉としてフィリピンに出征、戦後、捕虜となる

年譜（2）

- 昭和22年（26歳）　帰国熊野にて林業の会社を創設。昭和23年、妹の死や結核の悪化で帰京
- 昭和24年　出版の世界に入る
- 昭和29年（33歳）結婚、挙児1名、昭和31年山本書店の名で初の出版
- 昭和45年（49歳）、イザヤ・ベンダサンの名で出版した『日本人とユダヤ人』がベストセラーになり、言論活動を開始
- 平成2年、膵癌と診断され手術、平成3年永眠、享年69歳。200冊以上の著書、共著等がある

特殊な生い立ち

捕鯨の光景

- 両親は親戚同士で和歌山熊野地方で、代々鏃生産や捕鯨など様々な事業旧家出身

- 大逆事件の大石誠之助の縁戚、山本の父は大石を慕っていた。事件の影響で故郷を離れる

- 大石の兄、玉置酉久は新宮教会を建設した人物で、山本の両親は彼の影響でキリスト教徒になり、内村鑑三の研究会に参加

人物と生涯の特徴

- 熱烈な新教信者の家庭、生来のキリスト教徒
- 学徒出陣し、砲兵下級将校としてフィリンピンへ出征、戦後収容所に収容、戦犯冤罪の危機
- 出版社を経営し、聖書学関連書籍の出版をライフワークに。経営者としての矜持
- 49歳で『日本人とユダヤ人』出版をきっかけに有名人になり、論壇の中心人物に。内閣のブレーンとして研究グループの議長や臨時教育審議会の議員も務める

『日本人とユダヤ人』

- 日本人論の代表作、聖書文化圏と日本の比較文化論
- 明治的啓蒙主義により意識できなくなった日本人の内なる原理の探求
- ユダヤ人や旧約思想の考え方を解説、如何に日本人に理解不能か示すとともに書いた内容は今日では常識化

『空気の研究』

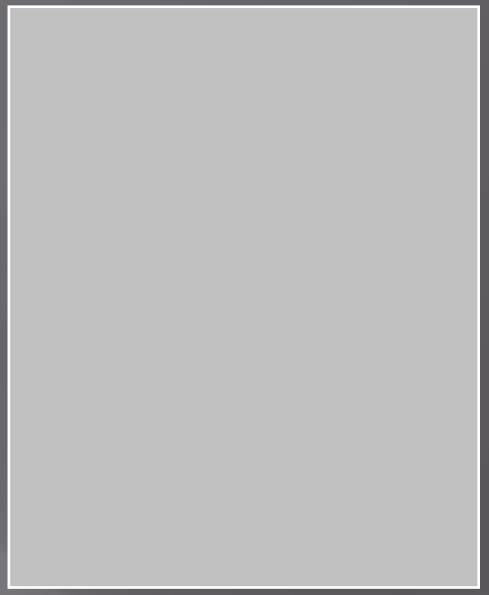
ミケランジェロの天地創造

主なる神は土の塵で人を形づくり、
その鼻に命の息を吹き入れられた。
こうして、人は生きる者となった。

- 日本を支配し、成功と破滅をもたらした日本人の「空気」「常識」「当たり前」
- 「空気を作る、空気に水を差す」、空気と水がなければ人間は生きられない
  ―空気と水の原理、プネウマとプシューケー
- 結論としての個人主義と自由主義。空気から自由になるための自覚と主体性

日本研究

- 日本の正統や革命
  現人神の研究、山崎闇斎などの掘り起し
- 日本資本主義の精神
  石門心学の発掘
- 貞永式目の評価　　律令と慣習法
- 現代日本人の起源　　江戸期以前の思想家達
  その他多数の仕事



石田梅岩（1685-1744）

旧約思想の紹介

- 出版活動を通じて聖書の考え方を解説し広めようとした。教関連書籍出版『旧約聖書の人々』、ヨセフスの『ユダヤ戦記』など出版

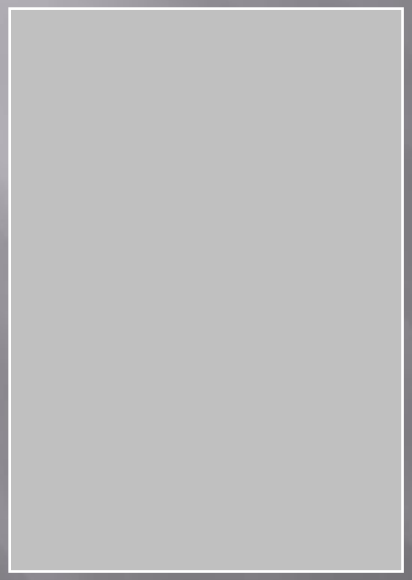
- 中東問題などについて批評、解説を行う

戦争体験

- 学徒出兵、下級将校として戦地へ。部隊は全滅、ただ一人生き残り、捕虜体験、戦犯容疑など
- 『私の中の日本軍』『下級将校の見た日本陸軍』『ある異常体験者の偏見』など戦争体験記の著作群、小野田少尉救出で的確な助言
- 負けると分かっていた戦争、日本軍の不合理さ、日本人とは何かについての思索へ

キリスト教との関係

- アイデンティティー　「もの心ついた時から教会にいた」「三代目のクリスチャン」「内村鑑三の孫弟子」

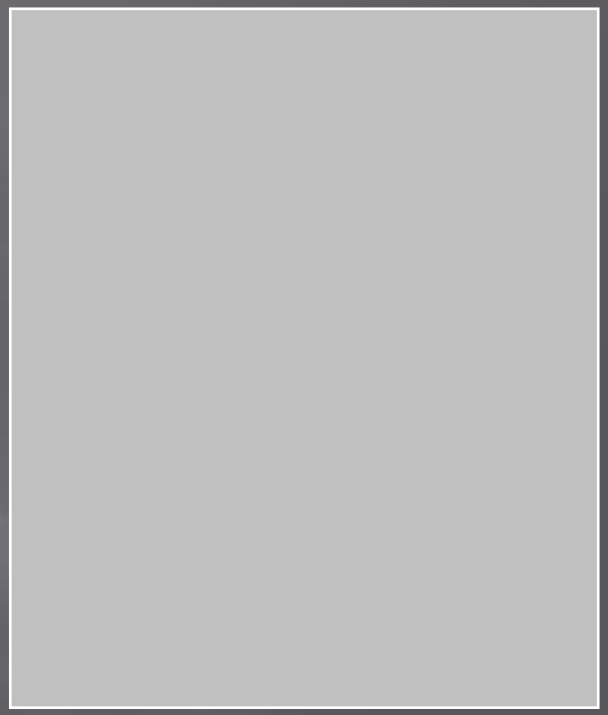


内村鑑三（1861-1930）

- 零細の書店を経営、聖書学関係書籍を出版
- イスラエルを繰り返し訪問、遺骨をマサダで散骨
- 明かさなかった内面

大逆事件との関係

- 山本の父は幼少時に父を失い、大石を父のように慕っていた
- 事件は家内でタブー視され、入営直前まで山本に明かさなかった
- 冤罪と天皇制



幸徳秋水（1871-1911）

裁判と冤罪

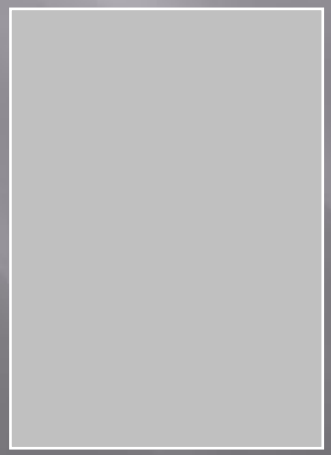
- 2つの冤罪問題「大逆事件」と「B・C級戦犯」
- 『洪思翊中将の処刑』などの著作、「百人切り論争」の論戦
- イエスとドストエフスキーの裁判と冤罪、生涯に繰り返し現れるモチーフ
- 法、正義、倫理と近代法の関係

文献研究

- 幼少時より本好きで本に関する仕事を生業に
- アカデミズムと関わらず独学で文献を読み込む
- 聖書学、文献学的方法

小林秀雄への傾倒

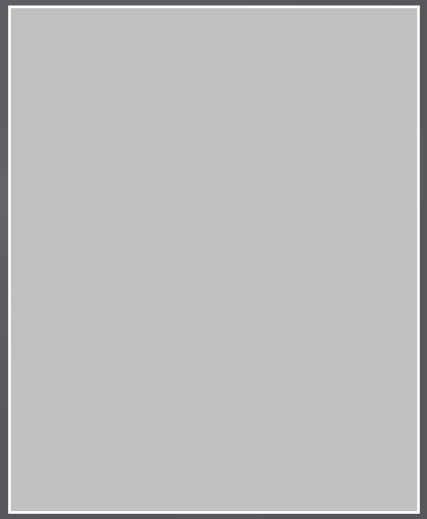
小林秀雄（1902-1983）



- 小林秀雄全集を暗記するほど読み込む
- ライフスタイルの模倣「自分の言いたいこと、やりたいことをして生活していけると言うこと」
- 戦前戦後で逆のことを言う一身両頭人間への批判　「『あの状況ではああ言わざるを得なかった』『私の立場ではこういわざるを得ない』という言葉を生涯口にしまい」

ドストエフスキーへの共感

- 皇帝暗殺事件と大逆事件、皇帝と天皇
- カラマーゾフの兄弟とＢ・Ｃ級戦犯、裁判と冤罪の問題
- 自分を隠して生きること：秘密警察、軍隊で心を開かず、イザヤ・ベンダサンでの執筆
- 近代化の問題、キリスト教と民族の思想、ロシアの大地と日本教
- M.バフチンのポリフォニーの方法論
  →空気に水を指す方法論として複対立的対象把握の提唱



ドストエフスキー（1821-1881)

まとめ

- 山本の独創的な研究には特異な経歴が関係している。
- 山本は明治以降の啓蒙主義などの近代主義の分析、批判、相対化を行った。
- 山本は日本人を研究し、「空気の原理」に到達した。空気支配から逃れるために、自由、個人、自覚、主体性、構造の意識化が重要とした。
- 山本は文献学、構造主義、複対立的対象把握など現代的な方法を用いた。

おわりに

- 山本は日本の近代主義を批判、空気の原理を発見し、空気から自由になる方法を考えた。

- 山本は、時代の空気に支配されず、モダニズムのイデオロギーを分析、解体、批判し、日本人の通念を変える仕事を独力でなし得た創造的人物であった。